

社会医療法人一成会と地域をつなぐ広報誌

# Asociado

2026年 新年号



# 学びを地域へ、連携を未来へ

1<sup>2026</sup>



TOPIC1 | 第66回 全日本病院学会に参加しました

TOPIC2 | K×K HUB FORUM を開催しました

## topic 1

### 第66回 全日本病院学会in北海道に参加しました (2025/10/11-12)



全国各地の病院関係者が集う本学会では、医療の質向上、病院運営、地域包括ケアなど、さまざまなテーマについて多くの実践報告と意見交換が行われました。なかでも、病院と地域をつなぐ医療連携のあり方について、多くの議論が交わされていたことが印象的でした。

今大会のテーマは「温故知新」。これまで積み重ねてきた医療の実践や経験を振り返りながら、新しい時代の地域医療のかたちを考える、非常に示唆に富んだ内容でした。

地域医療を取り巻く環境が大きく変化する中で、医療連携や地域包括ケアに関する発表を通じ、「病院単独で完結する医療」ではなく、地域とともに支える医療の重要性を、改めて実感する学びの場となりました。

#### 薬剤科

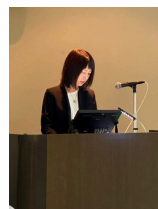
学会全体を通して、DXや生成AI、RPAの活用など、医療現場が大きく変化していることを実感しました。人員確保の難しさや物価高騰といった課題の中で、各施設が業務効率化や質の向上に向けて工夫を重ねている点が印象的でした。

薬剤科としては、LINE WORKSを活用した情報共有や疑義照会、電子カルテへの記録方法などを工夫しながら、タスクシフトの視点を今後も継続していきたいと考えています。



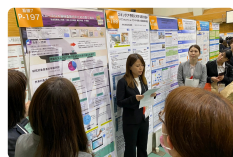
#### 栄養科

災害時の非常食提供訓練をテーマに発表を行い、近年の自然災害の多さを背景に、防災対策への関心が高まっていることを実感しました。ニュークックチルを導入している病院の取り組みも紹介され、人員不足が進む中での食事提供体制について多くの学びがありました。急性期病院である当院では現時点での導入は難しいものの、将来的な選択肢として検討していく必要性を感じています。



#### 外来看護師

初めての学会参加、そしてポスター発表という貴重な経験を通して、学会の雰囲気や発表の流れを知ることができました。弾性ストッキング指導や残薬調整、インシデントレポートなど、外来業務に直結する発表も多く、日々の関わりを見直すきっかけとなりました。



#### 地域サービス事業部 (訪問看護)

在宅医療を取り巻く環境が厳しさを増す中、各地域での取り組みを知ることができ、大きな学びとなりました。発表を通して共通して感じたのは、オンラインだけではなく「顔を合わせる関係性」が、在宅医療や地域連携を支える基盤であるという点です。

自身の発表では、支援者に対するグリーフケアについて議論が交わされ、今後の課題を再認識しました。また、看護師が実践するエコーの活用に関する講演では、ケアの効率化や利用者負担の軽減につながる可能性を感じました。

#### 木村病院 院長

医療安全をテーマとしたシンポジウムでは、全国の病院関係者とともに、医療安全の文化づくりや病院機能評価の視点について意見交換が行われました。医療安全を個人の努力に委ねるのではなく、組織としてどのように支え、仕組みとして現場に根付かせていくかを改めて考える機会となりました。

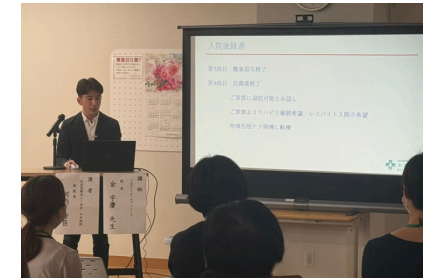


## topic 2

### K×K HUB Forum を開催しました (2025/11/21)

#### 第1回テーマ

#### 「訪問診療と病院のシームレスな連携」



第1回フォーラムでは、こまどりホームクリニック 院長・金先生、木村病院 副院長・河内医師によるリレー形式の症例報告を行いました。

同一の患者さんを、

- ・ 訪問診療
- ・ 入院・治療
- ・ 退院後の再訪問

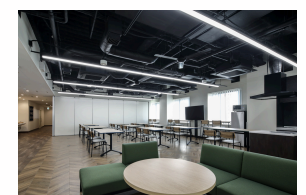
という一連の流れで支えた事例を通し、在宅と病院が互いの強みを活かしながら、情報を丁寧に共有することの大切さが示されました。このような連携により、入院から在宅への移行がスムーズになり、切れ目のない支援が実現します。

実際の症例をもとに、在宅と病院、それぞれの立場から連携の工夫や課題を共有できたことは、今後の地域医療を考える上で大きな学びとなりました。同じ患者さんを支える中で、役割の違いを理解し合い、顔の見える関係で情報をつなぐことの重要性を改めて確認する機会となりました。



#### 地域を支えるための「HUB (つなぐ中心)」

～K×K HUB Forum、新たなスタート～



5階 KAWANOTE BASE

木村病院では、これまで地域の医療・介護・多職種との連携を大切にしながら、医療連携の会を継続してきました。そして移転後、当院5階に KAWANOTE BASE という多機能型拠点が生まれたことで、人が集い、顔を合わせて語り合える“場”が整いました。

その歩みをさらに発展させ、これまで長く親しまれてきた医療連携の会を、このたび K×K HUB Forum (ケー・パイ・ケー・ハブ・フォーラム) として新たにスタートしました。この「K×K」には、私たち木村病院 (KIMURA) と、KAWANOTE BASEという一成会が誇る二つの「K」を起点に、地域の医療・介護・福祉に携わる多職種の専門家が自由に行き交い、交差する拠点 (HUB) でありたい、また木村病院が高度急性期から慢性期に渡る医療機関や介護施設を繋ぐHUB機能を持つ組織でありたいという強い願いを込めています。

今回の副題に掲げた「共創する地域のケア」には、多職種が力を合わせ、地域で暮らす方々を支えていきたいという私たちの想いを込めました。

このフォーラムを通して、人と人がつながり、地域のケアが少しずつ育っていくことを願っています。



## 謹賀新年

新春の候、地域の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。旧年中は当院の運営に対し、多大なるご理解と温かいご支援を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

2022年5月に現在の場所へ新築移転してから、早いもので5年目という新たなステージを迎える年となりました。この4年間、私たちは新しい環境に身を置きながらも、変わることなく地域の皆様に温かく支えられ、共に歩んでまいりました。移転当時の新鮮な志はそのままに、この南千住の地に深く根を張り、地域の皆様に「ここがあって良かった」と信頼していただける病院へと成長できたことに、深い感謝の念を抱いております。

私たちが約20年前から掲げる理念、「みんなの元気のパートナー」。2026年を迎えるにあたり、私は改めてこの言葉に込めた「治し支える医療」を実践していく決意を新たにしております。的確な治療で「治す」ことはもちろん、その後の生活や人生に寄り添い、地域の中で安心して暮らし続けられるよう「支える」。当院の99床という真心の届く病床規模、そしてご自宅での療養を支える訪問診療の拡充。これらを最大限に活かし、病院の中と外を切れ目なくつなぐことこそが、地域医療の砦たる私たちの使命です。

2025年、この「治し支える」体制をさらに強固にする進展がありました。診療面においては、整形外科手術が着実に実績を重ね、多くの患者様を再び地域へと繋ぐことができました。また、地域の透析医療を充実させるべく4月に腎臓内科の常勤医を迎えました。腎臓内科専門医がいることで、透析療法のみならずその前段階である腎臓疾患全般において専門的な対応力が大幅に向上いたしました。早期の診断から適切な管理に至るまで、専門医が常に身近にいるという安心感は、私たちの医療の大きな柱となりました。

さらに、通院が困難な患者さんや、最期まで住み慣れた家で過ごしたいと願う方々の声に応えるべく、24時間体制の訪問診療の拡充にも力を注いでまいりました。

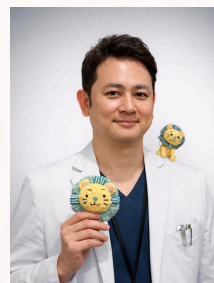
地域連携においても、昨年より名称を改めた「K×K Hub Forum（ケー・バイ・ケー・ハブ・フォーラム）」を軸に、木村病院（KIMURA）とKAWANOTE BASEが起点となる「顔の見える連携」をさらに深化させております（※詳細は内面をご覧ください）。

そして、昨年の大きなトピックの一つが、公式マスコットキャラクター「きむらいおん」の誕生です。百獣の王の強さと地域を想う優しさを兼ね備えた「きむらいおん」は、今や病院の顔として、患者さんやご家族、地域の子供たちを繋ぐ欠かせない存在となりました。2026年は、この「きむらいおん」がさらに活動の場を広げ、地域を元気にするアンバサダーとして皆様のより身近な場所へ伺う機会を増やしてまいります。

2026年も、全職員一丸となって皆様の健康と笑顔を守り続けてまいります。新しい一年が、皆様にとって幸多きものとなりますよう心よりお祈り申し上げます。

2026年 元旦

社会医療法人社団一成会 木村病院  
院長 木村 玄



**みんなの元気のパートナー**

社会医療法人社団一成会 木村病院  
住所 〒116-0003 東京都荒川区南千住1-1-1  
電話番号 03-5615-2111

Instagram



ホームページ

